

【教育目標】

【知】自ら学び、考え、進んで行動する人

【徳】互いを尊重し、協力する人

【体】心身ともにたくましく健康な人

杉並区立中瀬中学校

下井草4-3-29 TEL 3399-2196

「みんな違ってみんな良い」は世界標準？

校長 香西雅斗

科学と自然の散歩みちのあちらこちらで梅の花びらが舞い、ハクモクレンの花が開き、桜が咲き始めました。寒暖の差が激しい日が続いていますが、いよいよ春がやってきました。

先日私は、1・2年の各クラスで、テヘラン(イランの首都)日本人学校に赴任した(1997~2000)体験をもとに国際理解の道徳を行いました。その一部を紹介します。



<アルボルズ山脈とテヘラン>

イランの大部分は乾燥しきった緑の少ない土地ですが、首都テヘランは4000m級の山脈を背に、雪解け水がオアシスとなり流れる大都市です。産油国イラン、道路には車がひしめいていました。

テヘラン生活で最初困ったのは、買い物のため道を渡ろうとしても、横断歩道や信号がないことです。立っていても車は決して止まってくれません。でもイランの人たちは、どんな往来の激しい道でも、幼い子ども連れでも渡っていくのです。そのうち分かってきたのは、イランの人たちが表情や歩き出すことで、向かってくる車に「自分は渡るぞ」とアピールしながら、とにかく渡り始めていることです。でも車が止まることはありません。(車がひしめいている状態で止まるのは危険！)

「渡っていいよ」とスピードを落とすドライバーもいますが、「渡さない」と突っ込んで来る、「渡ってもいいけれど自分も通る」とコースを変えて歩行者の前や後をすり抜けようとするなど様々です。歩行者はそれに対し「それでも渡る」と突き進んだり、衝突を避けるようにコースやスピードを少し変えたりと“駆け引き”を続けながら、歩き続けるのです。

この駆け引きは、道を渡るだけでなく買いものを含め、テヘラン生活の基本でした。実は、世界の多くの国がイランと同じ『まず駆け引き、規則はその結果』のスタイルです。異なる民族や文化が入り交じる中では、相手が自分と同じ感覚であることは期待できません。だからこそ世界は『まず交渉、駆け引き』です。

それに対し、道を渡るときにまず横断歩道を探し、信号を見る日本は『みんなが規則を守ることを大切にしている』という周囲に対する信頼によって成り立っている社会であることが分かります。

日本が世界共通の目標である『相互に信頼しあう社会』であることは、日本人として誇るべきことです。そして、その目標に一步ずつ近づくため『交渉、駆け引き』し行動するイランや世界の人々の、したたかさやたくましさ学ぶことも、必要なことだと思います。(生徒の振り返りは次のページで紹介します)

考えてみると『みんな違ってみんな良い』も“違ってても良い人”が暗黙の前提である点で、日本的な感覚と言えます。一方、世界では『みんな違ってている』のは当たり前、でもそれで“みんな良い”とはなりません。その上で、どちらが良いか争ったり、さらに良いものを作ろうと、せめぎ合い、競い合うことが求められます。

国際理解教育の目標は、世界の国々の文化などの風土を知ることにとどまらず、世界の人々の考え方を理解した上で自国の良い所や考え方を主張し、より良い世界を作ろうと自分から行動して行ける力を養うことです。中瀬中はこれからも、その目標を目指し進んでいきます。

道徳特別授業

今年度は留学生との交流ができなかったこともあり、イランでの「道を聞くと喜んで教えてくれるが、けっこう間違えている」ということをもとに1・2年の各クラスでの授業を行いました。

それぞれの国、それぞれの人の“心のものさし（当たり前という感覚・考え方・価値観）”について考え、自分のものさしについて、自分なりに考える時間でした。



<ザクロはイランが原産>

自分と考え方や行動が違うという理由で、差別する人が少なくない。人によってもものさしが違う事をお互いに理解することが大切だ。1A 博多 航大

国によって考え方はたくさんある。自分と違っても、受け止めることで、価値観が広がると思う。1A 深町 朱里

違うから「イヤだな」などの感情が生まれる。けど相手の状況や、どんな気持ちで行動したのか考えることで、相手の心のものさしははかれると思った。1A 宮澤 紗希

宗教や環境などの「違い」が大きくあり、心の広さも違う。日本人は完璧を追求しすぎなのかも。1B 末岡 慶士

同じ地球に暮らしていても、姿だけでなく物事を判断する基準が違うのは、大変だけど面白い。1B 宮野入 友奈

イランの人の「間違いは恥ずかしくない」がとてもいい。間違いは単なる事実。1A 高尾 百花

人によって物事に対する感じ方が異なる。相手の感じ方を考えて話さないと食い違ってしまう。1B 渡辺 大智

考えの基準が違うのは当たり前だが、それを分かっているもイラっとするのは皆同じだと思ったり。1B 佐藤 麗心



国によって、考え方や行動、生き方が様々だけど、一人一人の意見や考え方が広がるのは、実際に経験しても聞いただけでも面白い。1C 平元 栞

自分と他人の「物事の受け止め方」「当たり前」は全く違い、それにより相手に対し変だと思ったり、イラっとしたりすると分かった。1C 宗末 莉央

国が違うと国民性も違ってくるし、育った環境が違うと考え方や価値観も違ってくる。自分と違う部分を受け入れて、その上で自分らしくいることが大切だと思った。1D 笹村 ひなの

育ててくれた親とずっと一緒にいて、価値観が自然に身についていると思っていたけど、価値観は似るだけで、私とちよつと違うかもしれないと思う様になった。1D 瀧本 華暖

考えの中心が自分か他の人が、自分の捉え方や気持ちの変化に関わってくる。自分がか不快じゃなくても相手がか不快かもしれないことを頭に入れておくことが大切。1D 原 悠音

自分が嫌な気持ちになることを友達が言った。でも自分と友達の違いが違ってもいいから、意味やつもりを考える必要がある。1C 林 美都季

外国にいた時、自分は言わないようなことをズバズバ言われたことがあった。自分では絶対に言わないことを、相手は平気で言うてくる。当時はひどい人だなと思っていたが、今思えば感覚が自分と違うだけ。相手は私に直して欲しい所があつて言ったかもしれない、と思う。心のものさしが違つと、今改めて実感できた。2A 西海枝 実季

相手の気持ちを理解することや、日本の中では当たり前のことでも、他の国に行くと、その国の当たり前行動が必要になってくるため、相手（その国の人）の心のものさしをはかることが大切だと感じた。2A 青島 光秀

自分の価値観だけで相手を測るのではなく、相手が大切にしている信念や第三者の視点から見るのも大切だと思った。各国の国民性で、ある程度判断できても、個人だと人の数だけ性格があるのだから、多角的に客観的に見ることが学べた。急に視点を変えて人を見るといふのも難しいものだと感じた。2A 長谷川 優



<ペルシャと言えば絨毯(じゅうたん)>

：全てのことを自分のものさしで測ってしまったら、相手の本当の思いが分からず、誤解したままになってしまうことに気が付いた。2B 坂上 陽香

：「自分がされたらこう思うから相手も」ではなく「自分がこうだと思つから」という理由で物事を進めるのも一つの選択だと気づいた。2B 安藤 琥太郎

：本当の自分の考え方。心の距離。一人一人考え方は違つてこそ成り立っていると思つ。意見が対立し、話し合い、解決することが、良い関係を築く。2B 齋藤 乃恵



<バラ水と言えばイラン>

他人のものさしはかなり目を向けられている。基本、疑いから入るが、そうすることで、相手を自分なりに理解しようとしていると思う。：僕は世界に出た方がいいかもしれない。2B 小山 流聖

自分は自信がなく、間違えたら恥ずかしい。「私なんか」のようなネガティブなことが自分のものさしになっていることに気が付き、そう思わない人もいると分かった。

：色々な人と関わり、自分の固定観念を崩していきたい。2C 清嶋 心蘭

：常識は、周りの環境や地域によって違うのだから、自分の「当たり前」の範囲を決めず、違う常識の範囲をもつ人がいたら、それを理解し範囲を広げていく。：2C 阿部 奏磨

人によって心のものさしは違うから、自分の価値観や常識を押し付けずに、人と関わるのが大切だとわかった。また、自分の心のものさしには気づきにくいから、意見の違う他の人と交流することで心のものさしを理解することが大切だとわかった。2A 松尾 翔

：日本は親切で礼儀正しい国だと思う。でも一定の距離の中で、フィリピンでは例え言語が分からなくても、片言のタガログ語でもリスベクトする。

僕は日本の親切な礼儀正しい文化をうけて、相手を尊敬するフィリピンの文化などを日本で広めていきたい。2B 丹野 真慈

自分の正しいは、他の人から見て正しいとは限らない。相手を理解した上で、状況に応じて相手に合わせた。2D 工藤 盾哉

大事なのは相手の価値観「当たり前」を知ることだと気付いた。：その上で自身の価値観を念頭においてコミュニケーションしていく。2D 宮丸 真依

自分が当たり前と思って、相手は分からないし、押し付けるのは良くない。お互いに理解し認め合うことが大事。2D 寺山 幸成

：「ふつう」という固定観念を無くしたい。頑張ってるを受け入れることも、人自身を押し付けることも、マイノリティーを否定することも、しなくていい。：2D 山竹 みれ

普段感じるのではないイランの人の感覚がとても新鮮でした。

：自分の考えが全てじゃないことは分かっているけど、一度身についたイメージを変えるのは大変だと感じた。2C 長谷川 涼々

：日本にはシャイな人が多いし、多数派の意見に合わせる傾向があると思う。

私は、他の人と同じになるのは嫌で、根本的に自分を表現することが好きで、目立つことも苦にならない。日本人としては少数派だと思った。2D 佐藤 若奈

：当たり前というものは、当たり前じゃなくて難しいものだと思った。：自分は正直に生きたいと思うし、間違った事をそのままにしておくたくない。

：友達の物差しと自分の物差しがぶつかった時は、一度立ち止まって相手を理解しようと思う。：2D 國分 信太郎

卒業生のお話を聞く会



2月1日(月)に2年生は体育館に集まり、二人の卒業生のお話を聞きました。一人は杉並工業高校の三年生でSE(システムエンジニア)の会社に就職が内定しており、もう一人は国立東京工業専門学校(五年制)の三年生でYahooのHack Uにも参加し活躍しています。

印象的だったのは「杉並工業ってどんな学校だと思いますか？」という問いに対する「勉強ができない」という生徒の声への切り返しでした。

「確かに中学までの勉強は僕は苦手だったし、今でもできない方だと思います。でも高校で学ぶ事は、中学とは全く違う内容です。大事なのは、高校でどれだけ真剣に取り組むかだと思います。」また国立高専生のパワーポイントを使った、学校と自分の取組の説明も見事でした。

自分の進路に誇りをもち、目標に向かって努力を続ける先輩方の話には、とても力がありました。4歳の歳の差が非常に大きく感じられる話しぶりでした。2年生の振り返りを紹介します。

：僕はこの授業から、親の指示になんでも従うのではなく、自分で将来の見通しをもつて行動することが大切だということに気がきました。将来の選択肢を増やしてくれた他、貴重な時間をくださった。ありがとうございます。2A 生駒 勇人

2人ともメッセージが共通していて、それがとても印象に残りました。私は「高校」を「将来」としてはいたけれど、「将来」を「ゴール」に視野を広くして選択していこうと考え直すことができました。1時間で選択の幅が広がり、少し進路に対する不安がなくなりました。：2B 手島 凜

高校といえは当たり前。小中のような形の授業があるかと思っていたけど、5教科とかの次元ではなく、本当に専門に特化した講義があるんだと驚いた。

自分が行きたい道を選んだ先輩方は、やっぱり自分の学科に誇らしげだし、生き生きしていた。私もこんな風に毎日楽しい日々を送りたいので、普通科にしても、色々な学科を調べた上で、「これに行きたい。」と自分で選べるような学校を見つけた。2C 西山 明里

自分の好きなことを貫くのはかっこいいと思いました。普通科以外にもいろんな学科があり、5年後の進路もいろいろありすごいと実感しました。学校によっていろんなことができるので、しっかり選びたいと思いました。

2D 松尾 健太

…普通科では絶対にやらないような勉強や実習があり、企業から就職の話を持ってきてくれるなど、私が知らない面白い話が聞けたので楽しかったです。

将来やりたいことを考え、たくさん選択肢の幅があるのだと分かりました。やりたいことが決まったら、今日の話を参考にして、専門系の高校のことも考えてみようと思いました。

2A 逢坂 真依

…二人ともとても堂々としていて自信があるように思えました。内容も分かりやすく、よくまとまっていた。工業科でプレゼンなどがあったのかもしれないが、自分もあんな風になれるのだろうか。

私は理科系の高校に進みたいと思ったが、自分の身の丈に合った所で、もう少し自分なりに探してみても良いかもしれないと考えさせられた。

2C 中野 睦月さん

正直、普通科に行くと人並みに働けばいいかと思っていたが、今日先輩方の話を聞いて、その考えは変わった。確かに普通科に行けば安定はするかもしれないが、自分の夢や好きな事を見つけ、それに向かって進学するのも悪くないなと感じた。あと一年、よく考えて進学しようと思う。

2A 永野 悠斗

僕は将来何がしたいとかはないけど、ちゃんと自分の考えをもつことが大切だとわかったから、将来自分は何をしたいのかを考えてみようと思いました。

普通科の高校も専門学校もそれなりの意志をもって入ると良いと思いました。自分のしたいことについて学べたりできる高校も大切だと思います。

2D 宮國 漣久

二人の先輩の共通な目標は自分たちでロボットを作り動かすこと。そして後輩たちに

「普通科もいいけど、やりたい事があるなら、ぜひ工業科などの専門科を考えてみるといいよ！」というメッセージを残してくれました。

医療従事者の方より

年末に216名の生徒の皆さんが送った、医療従事者へのメッセージへの御礼状が届きましたので紹介します。



生徒の皆様からの心温まるメッセージをいただき大変ありがとうございました。一人一人の気持ちのこもった内容に職員一同感激しております。いただきましたメッセージは廊下や病棟へ掲示させていただいております。(左写真)

厳しい状況が続く中、皆様からのメッセージを読ませていただき、とても励みになりました。生徒の皆様の声に応えられるよう、職員一丸となって乗り越えていきたいと思っております。

生徒の皆様におかれましても、楽しみにしていた行事やイベント等に影響が出て、通常の学校生活が送れない日々が続いているかと思っております。一日も早く通常の日常が戻ることを願っております。皆さんも手洗いやマスク着用など感染対策に努めていただき、体調に気を付けていただきましたら幸いです。

最後になりますが、このような素晴らしい贈り物をいただき、深く感謝申し上げます。 西東京中央総合病院 院長 種子田 斎

学校から授業配信

杉並区の個人情報保護審議会の審査を経て、欠席などで家にいる生徒への授業配信ができるようになりました。タブレット(矢印)を通し家から先生や黒板が見られるだけでなく、先生からの問いかけに答えたり、質問することもできます。教室移動の時は同じクラスの生徒が運んでくれています。

画面の見やすさや聞こえ方は、まだまだ十分とは言えませんが、利用した生徒からは「友達顔を見ながら話す事もできて、心強かった」という声があがっていました。



新潟よりの新米おいしくいただきました

中瀬中が毎年フレンドシップスクールでお世話になっている小千谷市の岩沢地区の皆様から新米が届きました。先週の給食でみんなでいただいた後、各クラスで趣向を凝らして作った色紙をお礼に送りました。

※柳井香里主任教諭(1A担任、技術)が3月8日(月)より産休に入り、石毛安子教諭が担任となります。なお技術の授業については、全学年ともすでに完了しています。



「思い出す 小千谷のお米を かみしめて」
「白銀の 輝き放つ コシヒカリ」
「米食べて 小千谷のにおい 思い出す」
～3Dの俳句色紙より～